

令和6年度第1回龍ヶ崎市文化財保護審議会
会 議 次 第

令和6年12月26日（木）
午後1時30分から
龍ヶ崎市歴史民俗資料館 多目的室

1 開 会

2 教育長あいさつ

3 委員紹介

4 会長／副会長選出

5 会長あいさつ

6 議 事

- ・議案第1号 龍ヶ崎市指定文化財の指定について
(候補物件：若柴宿駅図絵馬)

7 閉 会

若柴宿駅図絵馬（わかしばしゅくえきずえま）【概要】

種 別：歴史資料

所 在 地：龍ヶ崎市馴馬町 2488 番地（歴史民俗資料館寄託）

管 理 者：星宮神社

この絵馬は、水戸街道若柴宿の鎮守星宮神社に奉納されていたもので、通常の絵馬と比較してきわめて大きい縦 120 cm×横 150 cmの大絵馬と呼ばれるものである。

奉納された後、風雨にさらされていたためか、表面の状態は必ずしも良好ではなく、そこに記された文字や絵もすべてを読み取ることはできない。しかし、絵馬の中央部に記された「安永□丙申年四月吉日」、その下部に見える「大願成就 願主當宿 鴻巣茂左衛門 □□ 惣百姓」（□は判読ができない文字）という文字はかろうじて判読が可能である。

「安永」という年号で十干十二支が「丙申（ひのえさる）」になるのは安永 5 年（1776）であることから、この年に奉納されたものであると推察される。

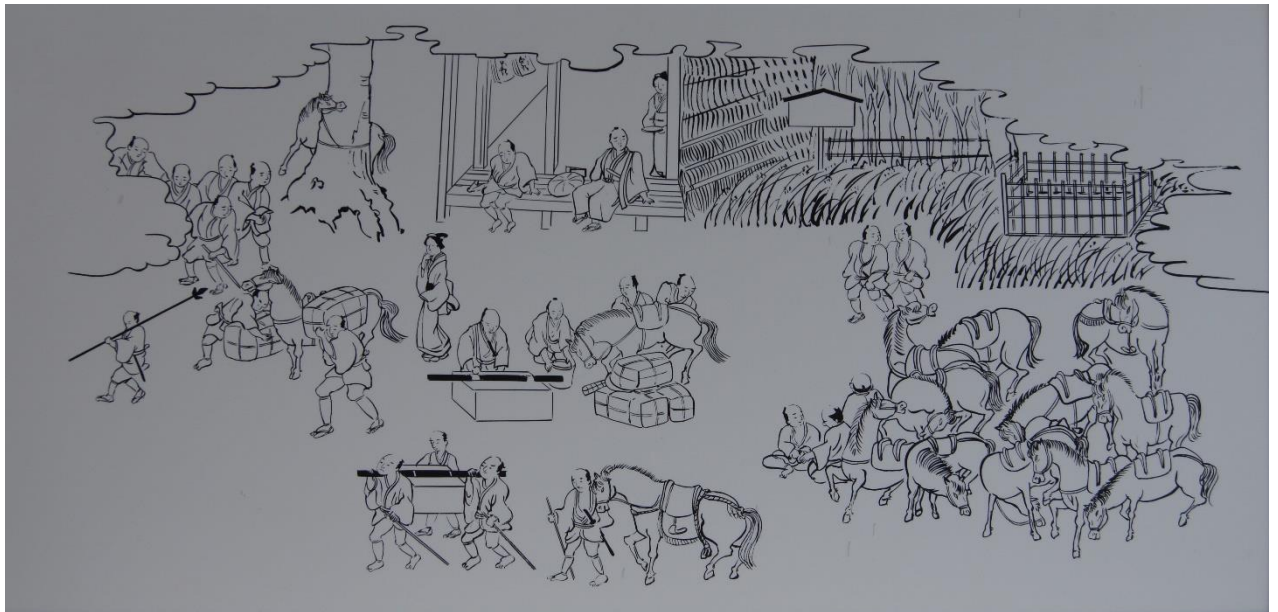
また、「大願成就」という文言からは、この絵馬が若柴宿の人びとにとって重要な事柄が成就した際に奉納されたものであることがわかる。『龍ヶ崎市史 近世編』では安永 5 年に定助郷の村数を増やし、勤高（つとめだか）を増加したい運動があり、定助郷の範囲が拡大されるという一定の成果があり、そうした経緯から奉納されたのではないかと推測している。

絵馬の内容については、絵が消えかかっている部分もあり、製作当初の状態を味わうことはできないものの、全体の構図として、上部では、道に面した建物の地点を描いていることから、街道を往来する人や馬を描いている。下部では、荷を積んでいる多くの馬や人びとが描かれており、人馬が頻繁に往来していたであろう 18 世紀後半の宿場の生業と繁栄をうかがわせる貴重な資料である。

馬絵図宿柴若



中央部（復元）



左下部（復元）

右下部（復元）



